

カナダ Canada



国名:カナダ
首都:オタワ
面積:998万4670km² (日本の約26倍)
※ロシア連邦に次いで世界第2位
人口:約3700万人
主要な都市:トロント、モントリオール、バンクーバー

日本との時差:6つの時間帯に分かれており、全国で4時間30分の時差をもつ。日本との時差は12時間30分~17時間
有名なもの:
●アイスホッケーが盛んで、国技に制定されている。
●カナディアン・ロッキー、ナイアガラの滝、オーロラ、『赤毛のアン』で有名なプリンス・エドワード島など、自然豊かな観光地が多い。

A: Excuse me, Miss?
B: Yes?
A: Are you planning to camp here overnight?
B: Yes, I'm ^①just about to ^②set up my tent.
A: OK. I just wanted to ^③let you know that we've had reports of a wolf in the area. He's been coming ^④out at night and approaching campgrounds.
B: Oh, that sounds dangerous.
A: Well, we'll be patrolling the area all night just in case. Don't worry, you'll be safe. But, please do not leave food ^⑤out anywhere when you go to sleep.
B: OK.
A: It's very important. Make sure you don't leave any food out at all, or else he could smell it and ^⑥be tempted to approach you.
B: All right, I promise I won't.
A: Thanks. And if you do see a wolf, or any animal, you mustn't feed it. That's also very important.
B: ^⑦Got it.
A: All right. Sorry to bother you. Enjoy your visit!
B: ^⑧No bother at all! I'm glad you warned me. Thank you!

A: すみません。
B: はい?
A: ここで一晩キャンプをするつもりですか?
B: はい、テントを立てているところです。
A: そうですか。このあたりにオオカミが出た、という情報がありましたので、お知らせしようと思って。夜出だして、キャンプ場に近寄ってくる、とのことですか。
B: えっ、危ないわ。
A: ええ、念のため、われわれは夜おしパトロールします。心配しないでください。大丈夫ですから。でも、寝るときは食べ物を出しっぱなしにしないでください。
B: はい。
A: 大変重要なことです。食べ物は出しっぱなしにしないこと。でないとオオカミは臭いを嗅ぎつけて、人間に近づこうとしますから。
B: はい、絶対に出しっぱなしにしません。
A: ありがとう。オオカミか、何か動物が出てきたら、食べ物を与えてはいけません。それも重要なことです。
B: わかりました。
A: では、邪魔ですすみませんでした。楽しんでください。
B: 邪魔なんかではないですよ。警告して下さって良かったです。ありがとうございます!

① just about to ★ just, aboutともに最後のtが明確に発音されず、「ジャサバウトゥ」のように聞こえる。② set up my ★ setのtが「ラ」の音のようになり、upのpは明確に聞こえない。「セラッマイ」のように聞こえる。③ let you ★ 2語がくっつき、「レッチュ」のように聞こえる。④ out at night ★ outのtは「ラ」の音に近く、atとnightはともに最後のtが明確に聞こえず、「アウラッナイッ」のように聞こえる。

⑤ out ★ outを発音する際、舌の位置が高めで「アウ」より「オウ」のように聞こえる。⑥ be tempted to do ~する気になる ⑦ Got it. わかりました。★=I understand. 音がつながり、「ガーレツ」のように聞こえる。⑧ no bother 気にしないで ★通常は相手が感謝の意を表したときに「なんでもないです」といった意味で使う。

カナダ英語の特徴

カナダ英語は、発音の面ではアメリカ英語とほぼ同じに聞こえる。イギリス英語との大きな違いはcarやcartと言った単語で/r/の音をはっきりと発音するところだ。

アメリカ英語との違いがあるとすれば、「カナディアン・レイジング」を挙げることができる。これは、aboutやhouseなどの語のように、/l/や/s/などの無声子音が後に続く二重母音/au/を発音する際、母音の始まりの舌の位置が少し高いという現象だ。アメリカ英語では「アウ」に近い音だが、カナダ英語では/au/（「オウ」に近い音）

になる。しかし、この特徴は一般的にはあまり気付かれない。語彙に関しては、カナダ英語では生活用語全般においてアメリカ英語と同じ語彙が圧倒的に多いが、イギリス英語の語が使われる場合もある。例えば「蛇口」はカナダ英語ではイギリス英語と同じtapを使い、アメリカ英語のfaucetはほとんど使われない。また、「トイレ」のことをwashroomと言うなど、カナダ固有の単語もある。カナダ英語についてよく指摘されるのは、eh?という間投詞を使う人が多い、という点だ。付加疑問の代わりにIt's a nice day today, eh?、感嘆文の後にWhat a beautiful view, eh?、さらに、何かを語る際に文中あるいは文末にeh?を挿入することもある。



Daniel Sykes さん (神田外語大学 ELI 語学専任講師)



Canadian English has a lot in common with American English — more so than British English ^①in terms of its sound. However, Canadian English also contains many British spellings. So, it might not be ^②inaccurate to say that Canadian English is a mixture of British and American English, because it has ^③influences from both.

Perhaps one of the most important words in English, Canadian English, ^④rather, is the word “eh,” which is not really a word exactly, but it's still very, very important if you want to sound Canadian. “Eh” is used at the end of a sentence to invite friendly agreement. It ^⑤functions very similarly to the Japanese “ne.” So, you might say a sentence like, “Oh, it's very hot today, eh?” Or “We really enjoyed that TV show last night, eh?” It's meant to invite agreement. It's often ^⑥made fun of by people from other countries that don't say “eh.”

In terms of pronunciation, Canadian English is similar to a number of varieties of American English. Probably the most interesting ^⑦feature of pronunciation we have in Canadian English is what we call “Canadian raising,” which is something that happens to certain ^⑧diphthong sounds. For example, the word “house,” Americans would pronounce it [haus], whereas Canadians would pronounce it more like [həʊs]. That diphthong sound changes somewhat. Americans will say “about” (as) [əbaʊt], whereas Canadians will usually say [əbəʊt]. A little difference, a small difference, not always easy to hear, but people will notice it. Native English speakers will usually notice the differences in sound.

So, there are ^⑨regional differences in vocabulary in Canadian English. In Ontario, I think it's mainly focused on Ontario, which is the ^⑩province where Ottawa and Toronto are. But an Ontario ^⑪term for a case of cans of beer is a ^⑫two-four. Twenty-four cans of beer, we would say a two-four. “I'm going to go to the liquor store and ^⑬pick up a two-four after work.” I don't believe it's an expression that's used elsewhere. Certainly not outside of Canada. I think most people would s—call it a case of beer.

カナダ英語はアメリカ英語と共通していることが多いです。発音に関してはイギリス英語よりそうです。でも、カナダ英語にはたくさんのイギリス英語のつづりが含まれています。つまり、両方の影響を受けているので、カナダ英語はイギリス英語とアメリカ英語のミックスだということも間違いとはいえないでしょう。

たぶん、英語、というより、カナダ英語でいちばん重要な単語の一つは、ehという単語でしょう。これは正確には単語ではありませんが、カナダ英語らしくしたかったら、とても重要です。ehは、相手の親しみを含んだ同意を誘うために文の最後に付け足されるのです。日本語の「ね」によく似た働きをしています。だから、こんなふうに言います。「あー、今日はすごく暑いですね?」ほかには「昨夜のテレビ番組はホントに面白かったですね?」同意してほしいということなのです。こんなふうに話すと、ehと言わないほかの国の人によくからかわれます。

発音に関しては、カナダ英語は多くのアメリカ英語に似ています。たぶん、カナダ英語の発音のいちばん面白い特徴は、いわゆる「カナディアン・レイジング」で、特定の二重母音に起こります。例えばhouseという言葉はアメリカ人は[həʊs]と発音するのに対して、カナダ人は[həʊs]のように発音します。(/au/という)二重母音が多少変わります。アメリカ人はaboutを[əbaʊt]と言うのですが、カナダ人はたいてい[əbəʊt]と言います。ちょっとした小さなわずかな違いで、聞き分けるのは必ずしも簡単ではありません。でも聞き分ける人もいます。英語のネイティブスピーカーなら発音のちょっとした違いに気付くことがあります。

それから、カナダ英語は語彙が地域によって違います。オタワとトロントがあるオンタリオ州では、たぶん主にオンタリオ州内のことだと思いますが、缶ビールの場合のことをトゥー・フォーと言います。24缶のビールのことを私たちはトゥー・フォーと言ったりします。「仕事終わりに酒屋へ行って、トゥー・フォーを買ってくる」のように言います。ほかの州では使われていない表現だと思います。少なくともカナダ国外で使われていないのは確かです。ほとんどの人はそれをビールケースと呼ぶと思います。

① in terms of ~ ~に関して、~の観点から ② inaccurate 不正確な、不的確な ③ influence 影響 ④ rather もっと正確に言えば、かなり ⑤ function 機能する、働く ⑥ make fun of ~ ~をからかう ⑦ feature 特性、特徴 ⑧ diphthong 二重母音 ⑨ regional

地方の ⑩ province 州 ⑪ term 言葉、表現 ⑫ two-four 24本のケースに入ったビール ★瓶ビールの場合もある。 ⑬ pick up ~ ~を買う、~を手に入れる